

# 平成29年度第2回農業大学校外部評価委員会 議事録

I 日時 平成30年2月19日(月) 13:30~15:00

II 場所 大分県立農業大学校 会議室

III 参加者 外部評価委員

教育関係者	大分県高等学校教育研究会農業部会長 (大分東高等学校長)	甲斐 良治 氏
生産者	大分県指導農業士会長	藤野 渉 氏
〃	大分県農業法人協会会長	増田 徳義 氏
〃	地元女性農業者	古庄 京子 氏
卒業生	大分県立農業大学校同窓会副会長	湯浅 正徳 氏
農業団体	大分県農業協同組合常務(営農担当)	三浦 堅二 氏
行政	豊後大野市農業振興課長	赤峯 浩 氏
行政	大分県中部振興局生産流通部長	三浦 敏郎 氏

農業大学校

校長、副校長、次長、農学部長、研修部長、教務課担当

IV 次第

1 開会 (進行:橋本次長)

2 あいさつ

(1) 校長あいさつ

今年度より、目標を新しく設定し、職員一同その目標達成に向かって様々な取り組みをしてまいりました。本日はその取り組みについて議論していただきまして、今後の農業大学校のための良きアドバイスをいただきたいと思います。よろしくお願いします。

(2) 甲斐委員長あいさつ

これから大学校側から各運営方針について、今年1年間の取り組みの説明がございませう。委員の皆様には忌憚のないご意見をいただきながら厳正な評価をしていただきたいと思います。

3 議事(議長:甲斐委員長)

(1) 平成29年度重点目標の取組状況及び評価について

**運営方針1「活気あふれる学園づくり」**

**【数値目標】基礎学力を備えた入学生の確保:60名**について校長より説明

《質疑・応答》

(三浦委員)

・2次募集が始まっているのであればその状況について教えてください。

(大学校)

・2月15日より募集を開始しまして、今のところ2件の問い合わせがありました。

(古庄委員)

・高校PTAの農大視察研修について、保護者の方の反響はどうでしたか。

(大学校)

・農業系高校から進学する学生の殆どが非農家出身で、参加された保護者の方も非農家の方が多く、初めてくる農業大学校について好印象を持っていただきました。

・高校PTAの視察研修では、視察研修の研修箇所も毎年同じ場所とは限らず、来年度も同じ高校から研修に来られるとは限りません。今後はその他の農業系高校を中心に本校を研修先を選んでもらえるよう呼びかけを行います。

(湯浅委員)

- ・入学試験の状況を見る中で女子学生の受験生が12名と多いようですが、大分東高校の生徒ですか。

(大学校)

- ・大分東高校からは昨年度の半数しか受験していません。その分農業系以外の高校からの受験生が多い状況にあります。
- ・今年の受験生の中に、大分県内有数の進学校から国立大学と併願をしている生徒もあり、本校の全体の学力を上げる又は認知度を上げる意味でも良い傾向にあると考えられます。

(甲斐委員長)

- ・そのほかの意見について確認。(特になし)  
運営方針1について、大学校の自己評価は「2の目標をほぼ達成」であります。委員評価としても同評価と考えますがいかがでしょうか。

(全員了承)

## 運営方針2「質の高い教育の提供」

**【数値目標】試験研究機関及び地域と連携課題80%以上、日本農業技術検定3級以上取得者80%以上**について校長より説明

(三浦委員)

- ・農業技術検定の合格者が目標に達していませんが、主な原因は何ですか。

(大学校)

- ・学生の自主学習のもと、各学科・コース担任を中心に指導をして補習等を実施してきましたが、予想以上に合格率が低くなりました。今後合格率の向上のため、学生の意識を高めるとともに、引き続き指導についてもしっかりと行いたいと考えています。

(湯浅委員)

- ・農業技術検定の資格を取得することで就職の際、何かメリットがあるのでしょうか。

(大学校)

- ・農業技術検定3級は主に農業全般の基礎的な部分になりますが、1級・2級になりますとより専門的な内容になってきます。企業等も採用の際、農業に対する知識として一つの目安として考えています。

(湯浅委員)

- ・そういった中で、学生は農業技術検定の資格を取得することにより就職等で有利なるということを知っているのでしょうか。

(大学校)

- ・学生には特に農業法人等へ就職する際に、有利になるとメリットについて伝えていません。

(湯浅委員)

- ・農業改良普及員等に就職する際に、農業技術検定の資格を持っていることにより有利なるということはないのですか。

(大学校)

- ・特に有利なるということはありません。この資格は約10年前に出来た資格ですが、まだ企業への認知度が低く、設立した日本農業技術検定協会も企業への認知度を高めるための取り組みがされている状況です。ただ進路上は履歴書に明記できるようになり、農業に対する知識の目安としてアピールできるようになりました。全国の農業系高校では積極的に資格取得に向け取り組まれており、大分県でも農業会議を中心に若手農業者に対しても資格取得の推進をいただいているなど、これから県内でも農業技術検定の認知度も上がっていく状況です。学生の農業技術検定の取得に対する意識についても農業系高校出身の学生については認識は高いのですが、それ以外の学科から入学した学生はまだ認識が低い状況にあります。

(甲斐委員長)

- ・そのほかの意見について確認。(特になし)  
運営方針2について、大学校の自己評価は「3の目標を未達成」であります、委員評価としても同評価と考えますがいかがでしょうか。

(全員了承)

### 運営方針3「新規就農者の確保」

【数値目標】全学生・研修生の進路決定、就農率80%以上について校長より説明

(古庄委員)

- ・農業法人等との就職相談会について企業参加が過去最高とありますが、相談会への参加に向けて企業へ強くアピールをされてきたのですか。

(大学校)

- ・農業法人等へ就職相談会への案内は、県内の各振興局と連携して行っています。年々案内する農業法人の数が増えている状況であるため、参加する農業法人の数も増えている状況にあります。

(甲斐委員長)、

- ・そのほかの意見について確認。(特になし)  
運営方針3については、大学校の自己評価は「2の目標ほぼ達成」であります、委員評価としても同評価と考えますがいかがでしょうか。

(全員了承)

(2) 平成30年度魅力ある農大の実現に向けた取組概要説明

- ・一部表記に変更を加えたが、基本的には本年度と同様。

(3) その他

○平成29年度学生・保護者・指導職員アンケート結果説明。

- ・自己評価の参考として毎年同様のアンケートを実施しているが、昨年度からの様々な取組みにより、学生・保護者・指導職員ともに評価は向上した。特に学生・保護者の「この大学校に入学してよかった(させてよかった)」という項目がともに向上し、高得点となっている点は喜ばしい。

(古庄委員)

- ・今年度も農大祭に参りました。学生の接客の仕方など見る中で、昨年度に増して良くなっているように感じました。

(大学校)

- ・ありがとうございます。農大祭は学生会が主体となり行っていますが、今年の学生会は各イベントとも趣向を凝らしており、最後の片付けまで手を抜くことなく取り組みました。

(甲斐委員長)

- ・議事終了と進行協力へのお礼。議事内容等については、ホームページ等で公表することを確認。

(大学校)

- ・次年度も引き続き、外部評価委員として継続していただくことを校長より依頼。

4 閉会